

平成 16 年度枝肉成績とりまとめ概要

(地域肉用牛振興対策事業 肉用牛繁殖雌牛能力評価等対策)

平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日の期間にと畜され、本事業で収集された枝肉情報は全体で 75,397 件であり、平成 15 年度の 99,004 頭より 23,607 頭減少した。(社) 日本食肉格付協会により平成 16 年度に格付された和牛 407,310.5 頭 (去勢 : 232,083.5 頭 雌 : 175,227 頭) の 18.5 % を占めていた (インターネット : 牛・豚格付結果ホームページ <http://kakuduke.lin.go.jp> 平成 17 年 4 月 25 日更新より)。

去勢、雌牛別の各形質の平均を年度別に表 1 に示した。去勢は全体頭数の 67.4%(対前年+1%) を占めている。平均値については、BMS(No)で、去勢は 5.37 と前年より 0.18 増加、雌においても 5.08 と、前年より 0.11 増加した。

表 1 枝肉形質平均 ± S D

形質名	性別	14年度				15年度				16年度			
		頭数	平均	±	S D	頭数	平均	±	S D	頭数	平均	±	S D
日齢枝肉重量(kg/day)	去勢	63,407	0.487	±	0.064	65,747	0.490	±	0.065	50,786	0.492	±	0.069
	雌	34,649	0.418	±	0.058	33,256	0.423	±	0.062	24,611	0.414	±	0.089
枝肉重量(kg)	去勢	63,407	437.5	±	54.2	65,747	436.2	±	53.7	50,786	437.8	±	57.3
	雌	34,649	383.7	±	46.2	33,256	382.6	±	47.2	24,611	382.8	±	50.3
ロース芯面積(cm ²)	去勢	63,386	52.6	±	7.9	65,716	52.9	±	7.8	50,742	53.0	±	8.1
	雌	34,624	51.2	±	8.0	33,238	51.5	±	7.8	24,529	50.8	±	8.2
ばらの厚さ(cm)	去勢	63,386	7.45	±	0.94	65,716	7.42	±	0.92	50,742	7.46	±	0.99
	雌	34,624	7.16	±	0.90	33,238	7.09	±	0.86	24,529	7.08	±	0.96
皮下脂肪厚(cm)	去勢	63,386	2.38	±	0.74	65,716	2.39	±	0.74	50,740	2.30	±	0.71
	雌	34,624	2.76	±	0.86	33,237	2.67	±	0.81	24,529	2.61	±	0.78
歩留基準値	去勢	63,386	73.61	±	1.33	65,716	73.64	±	1.30	50,742	73.73	±	1.31
	雌	34,624	73.57	±	1.43	33,238	73.64	±	1.36	24,529	73.60	±	1.39
BMS(No)	去勢	63,386	5.27	±	2.00	65,716	5.19	±	1.92	50,742	5.37	±	2.00
	雌	34,624	5.17	±	2.10	33,238	4.97	±	1.94	24,529	5.08	±	2.03
BCS(No)	去勢	63,386	3.85	±	0.64	65,716	3.79	±	0.64	50,742	3.80	±	0.60
	雌	34,624	4.05	±	0.66	33,238	4.00	±	0.67	24,529	4.00	±	0.65
しまり	去勢	63,386	3.69	±	0.90	65,716	3.68	±	0.88	50,742	3.71	±	0.91
	雌	34,624	3.60	±	0.94	33,238	3.54	±	0.92	24,529	3.53	±	0.97
きめ	去勢	63,386	3.87	±	0.80	65,716	3.86	±	0.79	50,742	3.91	±	0.80
	雌	34,624	3.78	±	0.83	33,238	3.72	±	0.81	24,529	3.74	±	0.89

各形質の平成 16 年度の度数分布及び年度別度数分布の割合を図 1 に示した。日齢枝肉重量は、去勢で 0.45 ~ 0.50kg/day が 13,862 頭と去勢全体の 27.3%(対前年-2.4%)を占め、雌では 0.40 ~ 0.45kg/day が 7,949 頭と、雌全体の 32.3%(対前年-2.7%)を占めていた。枝肉重量について、去勢で最も多く分布していたのは、400 ~ 450kg の 17,354 頭と去勢全体の 34.2%(対前年-2%)、雌は 350 ~ 400kg の 9,634 頭と雌全体の 39.1%(対前年-2.3%)であった。ロース芯面積については、去勢で 50 ~ 55cm²が 12,720 頭と最も多く去勢全体の 25.1%(対前年-0.81%)を占め、雌は 45 ~ 50cm²が 6,098 頭で雌全体の 24.9%(対前年-0.6%)だった。ばらの厚さについては、去勢において 7.0 ~ 7.5cm の階層が 10,863 頭と去勢全体の 21.4%(対前年-1.8%)と多く、次いで 7.5 ~ 8.0cm の 9,616 頭となり、去勢全体の 19%(対前年-1.3%)だった。雌では、去勢と同様に 7.0 ~ 7.5cm

の階層が 5,836 頭で 23.8%(対前年-0.4%)と最も多く、次いで、6.5～7.0cm の 4,512 頭となり 18.4%(対前年(-2.3%)であった。

図 1 各形質の度数分布

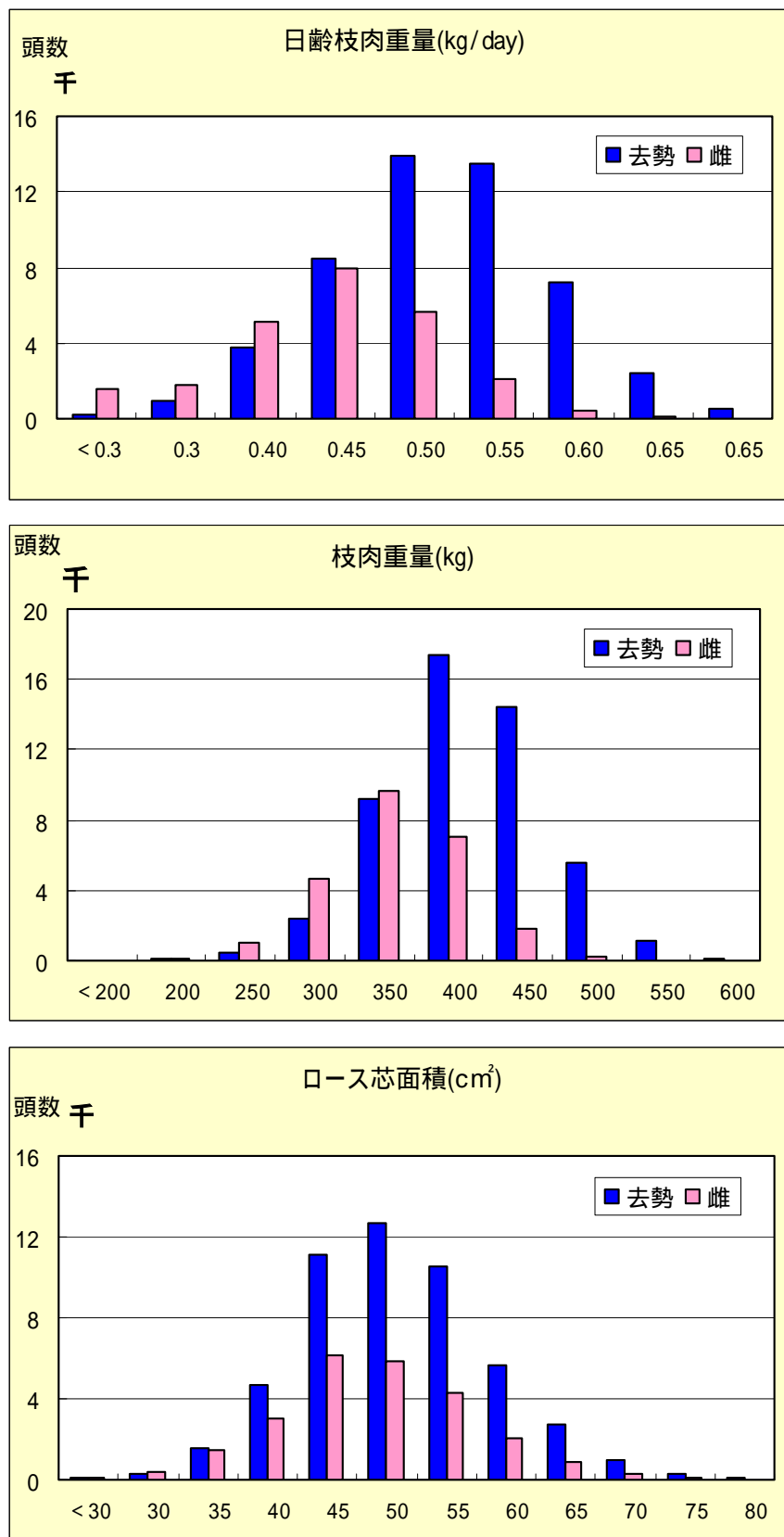
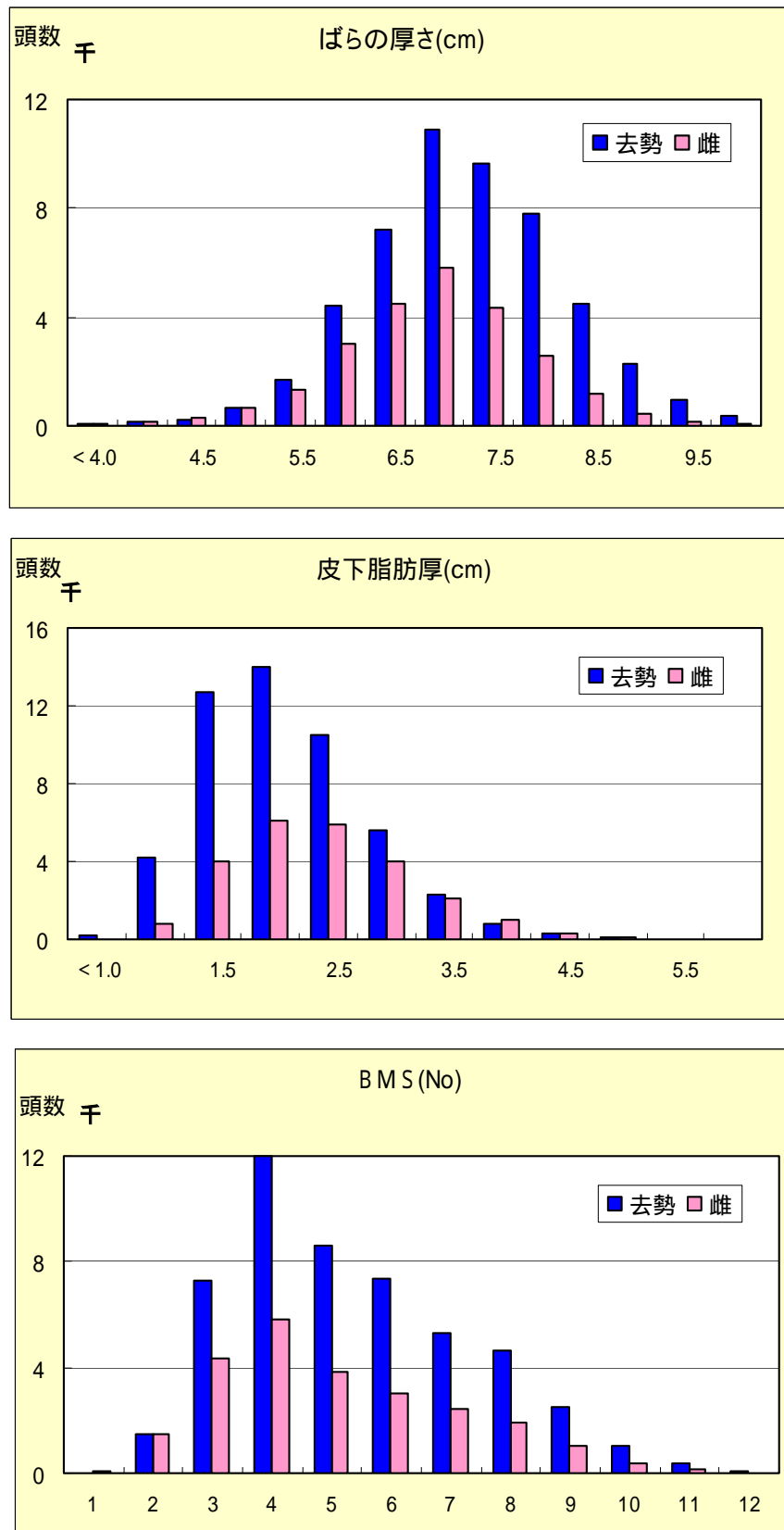


図1 つづき



皮下脂肪の厚さについて、去勢、雌ともに 2.0～2.5cm の階層が最も多かった。去勢では 14,003 頭で 27.6%(対前年-0.3%)、雌では 6,137 頭で 25%(対前年+0.4%)だった。

BMSにおいては去勢、雌ともに4が最多で、去勢 11,989 頭の 23.6%(対前年+0.4%)、雌 5,846 頭の 23.8%(対前年-0.1%)だった。BMSの等級区分は8以上が等級5となるが、去勢で8以上は去勢全体の 17.0%と、前年度の 14.3%より 2.7%増加し、雌は雌全体の 14.5%と、前年度の 12.7%よりも 1.9%増加した。

国では、肥育期間の短縮を図り、生産性を向上させるために、表2のとおり目標値を掲げているところである。また、図2では、と畜月齢別の各形質の平均を示した。と畜月齢の平均は、去勢で 29.4 ヶ月、雌で 34.0 ヶ月であった。日齢枝肉重量については、去勢で 26、雌で 25 ヶ月齢をピークに、月齢が進むほどに小さくなる傾向を示している。枝肉重量及びばらの厚さについては、30 ヶ月齢をピークに小さくなっており、ロース芯面積においては、31 ヶ月齢を境に停滞している。BMS、については月齢に伴い向上するが、32 ヶ月齢付近で停滞や低下傾向にある。

表2 黒毛和種去勢肥育牛の能力に関する目標数値

	肥育開始時		肥育終了時		枝肉重量	1日平均増体量	(参考) 肉質等級
	月齢	体重	月齢	体重			
	か月	kg	か月	kg	kg	kg	
現在	9.5	290	30	695	440	0.65	3.5
目標 (27年度)	8.0	240	24	675	430	0.90	3-4

注：1) 目標数値は、肥育期間短縮を目指したものである。

2) 「(参考)肉質等級」は、肉質の維持又は向上を目指しつつ、効率的な肥育を図るための目安である。

平成 17 年 3 月 家畜改良増殖目標より

図2 と畜月齢別分布

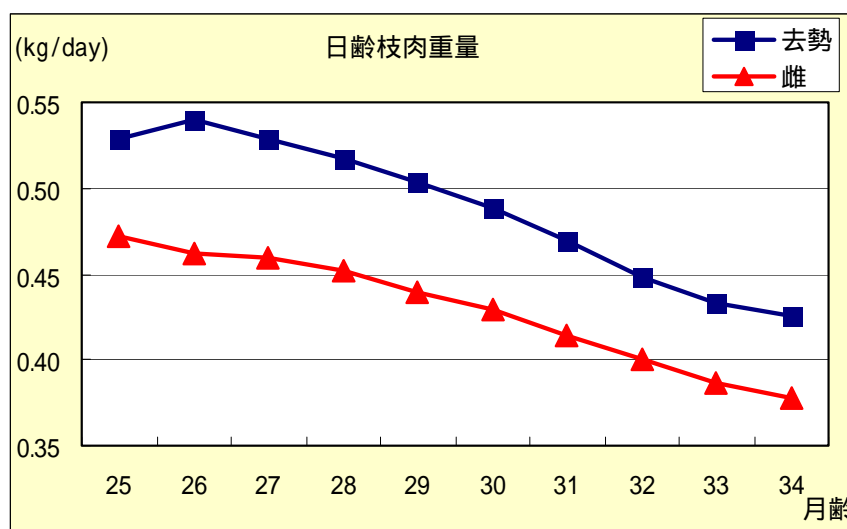


図2 つづき

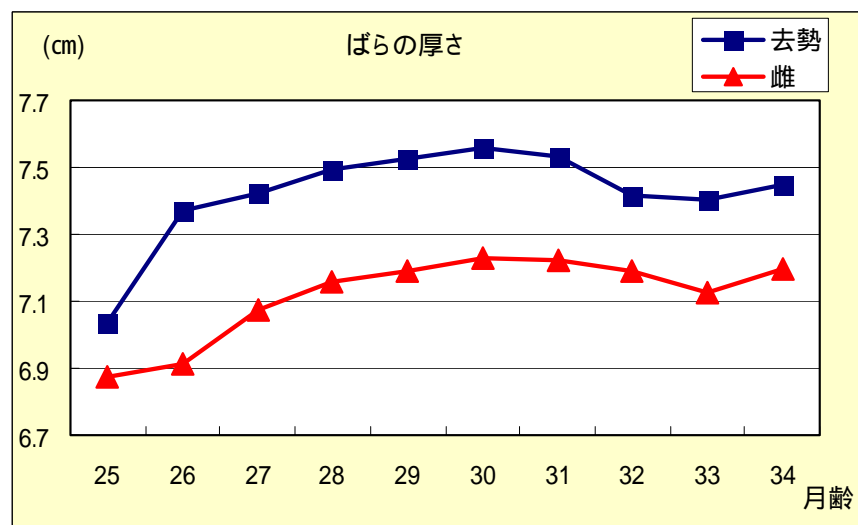
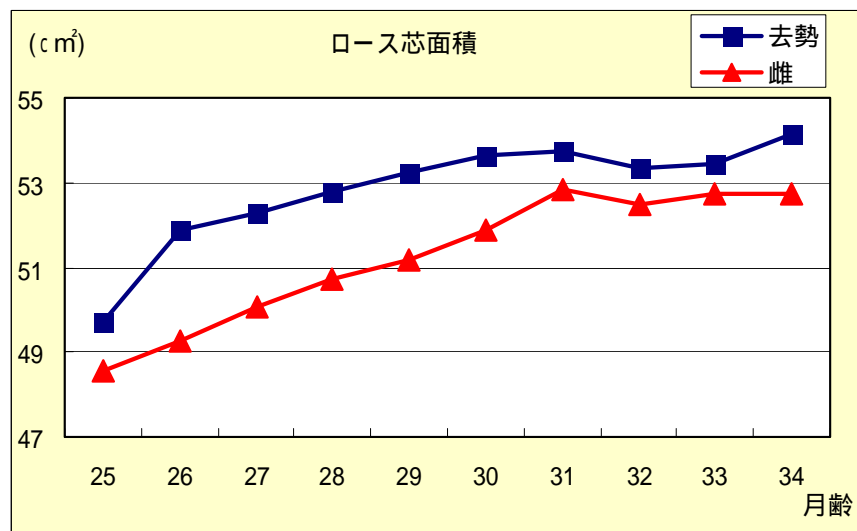
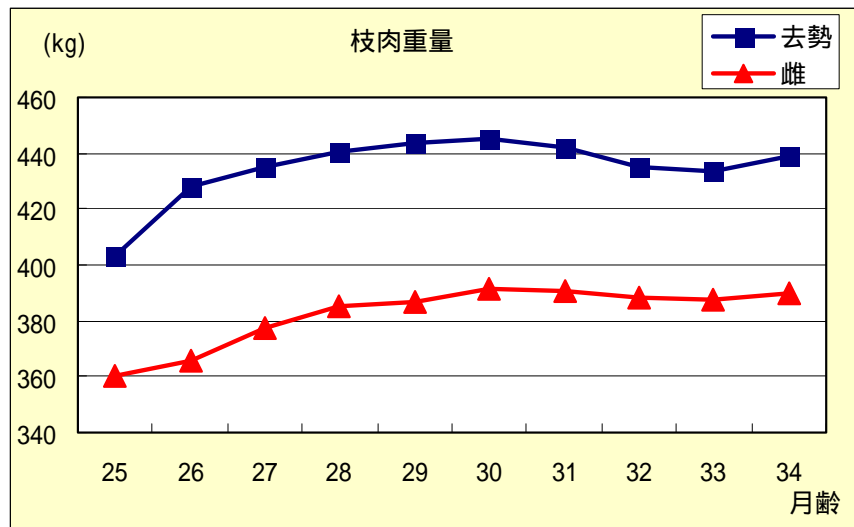
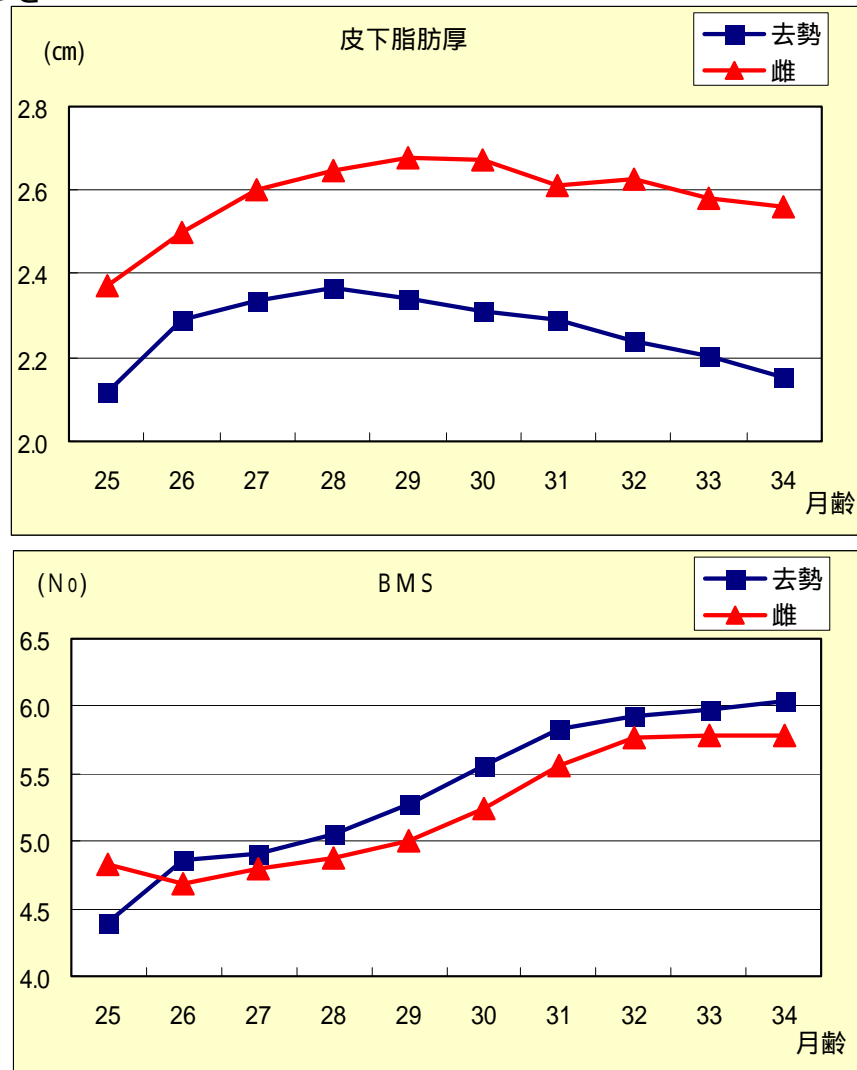


図2 つづき



《参考》枝肉成績まとめの見方

1) とりまとめの条件について

- ・平成16年4月1日から平成17年3月31日の期間にと畜され、本事業で収集された黒毛和種の枝肉情報を集計しています。
- ・各調査成績は生年月日、血統情報等個体が明らかなものについて集計しています。
- ・一部不明なデータは集計から除外したため、項目により集計件数に差があります。

2) 語句について

- ・各調査成績中の平均は、各個体で報告のあった成績の合計をその個体数で割ったものです。また、 $\pm S D$ は標準偏差を示しており、この値が大きいほど個々の成績にバラツキが大きいことを示しています。

3) とりまとめ項目について

提供形質について

日齢枝肉重量(kg/day)、枝肉重量(kg)、ロース芯面積(cm^2)、バラの厚さ(cm)、皮下脂肪厚(cm)、歩留基準値、BMS(No)、BCS(No)、しまり、きめの10項目です。

注) 日齢枝肉重量：枝肉重量をと畜日齢(と畜日から生年月日を引いた日数)で割った値

BMS：牛脂肪交雑基準

BCS：牛肉色基準

枝肉形質別平均 $\pm S D$ (去勢・雌)

年度全体平均

年度別の各枝肉成績の頭数、平均と標準偏差をそれぞれ示しています。